

ブルーベリー葉を栽培

西小林中 校区住民 地域特産品へ意欲

と準備を進めてきた。本年度の総事業費は約140万円。同日は、挿し木で育てた高さ20センチほどの苗を4500本

準備。会員が所有する約千平方メートルの畑にマルチシートを張り、会員が手作業で苗木を植えていった。来年秋から年1

回、3年目からは6～8月と10～12月の年2回の収穫を見込んでいる。

同協議会では今後、独自に苗木を育て、作付面積を広げる計画。貴嶋会長は「収益金は、将来的には子ども医療費の助成など、地域のために活用する。地域の産業として育てたい」と話している。

小林市・西小林中校区で地域おこしに取り組み「につこばまちづくり協議会（貴嶋憲太郎会長）は、地域の新たな特産品をつくらうとブルーベリー葉の栽培に取り組んでいる。5日は同市南西方の畑に会員25人が苗木を植栽。さらに栽培面積を広げ、同協議会の自主財源の確保につなげる。

栽培するのは宮崎大で品種改良され、ブルーベリー葉茶の原料となる「くにさと35号」。県内では都城市や国富町などで栽培されているが、小林市では初めて。茶には肝臓がんに予防や血圧、血糖値の安定に効果があるという。

2015年度の市新品目導入試験事業を活用。栽培に向けて、ブルーベリー葉茶の販売に取り組んでいる同市真方の「なな葉コーポレーション

（亀長浩蔵社長）」や宮崎大



ブルーベリー葉の苗木を植えるにつこばまちづくり協議会会員ら